

令和元年度事業計画

I 基本方針

少子高齢化に伴う労働人口の減少が懸念される中、働く意欲のある高齢者が長年培ってきた知識や経験を活かし、活躍し続けることができるセンターへの期待は大きくなっています。

しかしながら、会員数の伸び悩みに加えて新入会員の平均年齢も年々上昇傾向となっています。また、平成 28 年度から女性向けの入会説明会を開催し、女性会員の増強に努めていますが、男女比については、7:3 とまだまだ女性会員が少ない状況です。

今後は、介護や育児などのニーズが高まることが見込まれるため、さらなる女性会員の増強に取り組む必要があります。

就業においては、受託事業(請負・委任)が伸び悩む一方、派遣事業への需要は高まり続けています。就業相談を充実させ、会員のチャレンジ精神の後押しや、「自主・自立、共働・共助」の理念のもと会員一人ひとりが地域班や職群班活動を理解し、積極的に事業に参加して行くことが重要となっています。

また、「安全はすべてに優先」を基本に会員自らが事故防止に努めていかなければなりません。「作業別安全就業基準」や「請負・委任・派遣の働き方」を理解し安全にそして安心して働くことのできる環境づくりの推進が必要です。

このような状況を踏まえ、令和元年度の事業計画と目標数値を定めました。

“みんなの笑顔のために” 魅力あるセンターを目指し、事業を展開してまいります。

【事業計画】

- 1 会員の増強
- 2 就業の場の確保
- 3 安全・適正就業対策の推進
- 4 運営体制の強化・充実

【目標数値】

会員数	就業率	契約件数	契約金額	
			受託事業	派遣事業
5,350 人	79.5%	19,200 件	受託事業	17 億 2,000 万円
			派遣事業	7,000 万円
			合 計	17 億 9,000 万円

注：「就業率」と「契約件数」の数値は、受託事業と派遣事業の合計数値です。

II 事業実施計画

1 会員の増強

目標会員数 5,350 人達成のため、「会員 1 人が 1 人を誘う運動」や関係機関との連携した普及活動を行います。また、地域の女性会員へのニーズに応えるため、女性会員同士の交流・仲間作りから会員増強を目指します。

- (1) 女性会員の確保のため、女性向け入会説明会を開催するほか、仲間づくりや情報交換の場として、全女性会員対象の女子会を検討する。
- (2) さいたま市文化振興事業団と共催し、センター事業PRを含めた事業を開催し、60歳以上の市民に広く入会促進を図る。
- (3) 高年齢になっても、センター事業を通して社会参加や地域活動ができる制度を創設するため、「会員制度あり方検討会」を設置し、調査・検討を行う。
- (4) 自治会連合会協力のもと、会員募集のチラシ回覧やポスター掲示により、センターPRと入会促進を行う。

2 就業の場の確保

契約金額 17 億 9,000 万円、契約件数 19,200 件、就業率 79.5%達成のため、体制を整備し、継続的な情報収集を行います。また、就業相談や情報提供を充実し、就業の場の確保に努めます。

- (1) 多くの会員の就業機会を確保するため、営業体制を整備して請負・派遣の就業拡大に努める。
- (2) 会員の働く機会を広げるため、既存の独自事業（パソコン班、手芸班）の拡大のほか、講師派遣を主とした新たなグループを立ち上げる。
- (3) 就業開拓をメインとしたセンター紹介と教養講座を合わせた講座を開催しセンター事業を広く周知する。
- (4) 就業に必要なスキルを身に付けるため、苦情処理やハラスメント防止研修などを実施する。

3 安全・適正就業対策の推進

安全・安心して「働く」ため、会員の「気づき」の糧となるよう情報提供の強化や「安全のしおり」の周知に努め、安全・適正就業対策を推進します。

- (1) 職群別事故事例集（除草・草刈作業）を作成し、事故の未然防止及び再発防止に努める。
- (2) 作業別安全就業基準（ラミネート加工）の未設置場所の調査や継続的な活用の呼びかけに努める。
- (3) 就業途上の事故を未然に防止するため、高年齢者自転車交通安全講習会など安全教育を実施する。
- (4) 適切な就業形態（請負・委任・派遣）の理解を深めるため、就業紹介時等に説明を強化するほか、地域会議等で継続的に研修を実施する。

4 運営体制の強化・充実

地域班・職群班の更なる活性化に努めるため、会員の自主的、自発的な活動を促し、魅力ある組織の構築に努め、運営体制の強化・充実を図ります。

- (1) 会員が組織の一員として、センター活動に自発的に参加する意識の向上を図る。
- (2) 地域班・職群班の体制を整備し、会員の事業参加意欲の向上を図る。また、地域長や職群班長等の役割を整理し、組織の活性化につなげる。
- (3) 円滑な事業推進を図るため、会員が知りたいことや確認したいことを共有する仕組みの作成と活用方法を検討する。
- (4) 高齢者の社会参加意欲を共助に結びつける活動として、傾聴ボランティア「**あゆみ**」やシルバーライフサポート事業(外出支援)を推進する。
- (5) 地域の子供達との世代間交流を目的としたふれあい教室事業（「猿花ディキャンプ」、「書き初め大会」）の充実を図る。